

特別展

「ウメサオタダオ展」

みんぱく初代館長・梅棹忠夫の軌跡をたどり未来をみつめる特別企画展

日本のどのような問題も、日本だけでは解決できない、そんな現代だからこそ、世界への知的好奇心は欠かせません。世界中にあるさまざまな感動を記録した、梅棹忠夫の生涯を、みんぱくで「探検」してください。そして、世界へのあくなき好奇心をお持ち帰りください。

会期 6月14日(火)まで
会場 特別展示館

◆関連イベント

◆企画展

「民族学者 梅棹忠夫の眼」

梅棹忠夫が、世界各地で自身が撮影した写真のなかから自ら46点を選び、国内各地で開催した写真展「民族学者 梅棹忠夫の眼」を再現します。

会期 6月14日(火)まで
会場 本館展示場内

みんぱくセミナー

会場 国立民族学博物館 講堂
時間 13時30分～15時(13時開場)
定員 450名(当日先着順)
参加費 無料(展示をご覧になる方は、観覧料が必要です)

第395回 4月16日(土)

「特別展「ウメサオタダオ展」関連」

霊長類学からみたウメサオタダオの文明論
講師 山極寿一(京都大学教授)



梅棹忠夫の名著『文明の生態史観』は、現在の先史学や霊長類学の発見と照らし合わせてみても、その輝きは失われていません。人間共同体の歴史を生活様式の変化と生態学・遷移概念を用いてそこに段階的な法則を見出すとしたところが新しい発想でした。それを、人類の進化と自然に学ぶ市民力の歴史としてとらえ直してみます。

第396回 5月21日(土)

「特別展「ウメサオタダオ展」関連」

青年ウメサオタダオの学問形成

講師 中生勝美(桜美林大学 教授)

聞き手 小長谷有紀(国立民族学博物館 教授)



終戦間際の張家口に、伝説の研究所と呼ばれた西北研究所がありました。この研究所の半分以上の所員が著名な人類学・生態学の学者となりました。今回の発表で、若き日のウメサオタダオが、ポナペ、大興安嶺、冬のモンゴル草原縦走を通じて、どのように学問形成をしたのか、1998年にインタビューしたビデオテープの証言を元に発表します。

◆研究公演
「心に草原を——馬頭琴がひらく、新たな世界」

みんぱく初代館長の梅棹忠夫が、本格的な人類学研究を開始したのが、中国内モンゴル。生前最後に訪問した国もモンゴル国でした。今回の公演では、モンゴルの馬頭琴奏者A.バトエルネネ氏のほか、総勢9人による演奏を通して、地方に伝わる擦弦楽器との違いや民族音楽の移り変わりを紹介します。

実施日 5月5日(木・祝)
時間 13時30分～16時15分(開場13時)
場所 講堂
定員 450名
※参加無料、要申込
申込締切 4月21日(木) 必着
申込方法

往復はがきに住所・氏名(返信用宛名にも)・年齢・電話番号・参加人数(本人を含め4人まで)、「国立民族学博物館友の会」会員番号(会員のみ。維持会員および正会員の方は優遇枠があります。)<5月5日研究公演>と書いて広報企画室企画連携係までお申し込みください。応募者多数の場合は抽選となります。

お問い合わせ
広報企画室企画連携係
電話 06・6878・8210

◆みんぱくセミナー

詳細は13ページをご覧ください。

◆みんぱくウィークエンド・サロン

みんぱく名誉教授が梅棹先生の人格や研究についてお話しします。詳細は24ページをご覧ください。

オセアニア展示・アメリカ展示があたりしくなりました

あたりしく生まれ変わったオセアニア・アメリカ展示場にぜひ足をお運びください。

みんぱく春の遠足・校外学習 事前見学&ガイダンス

春の遠足・校外学習にむけて事前見学に来館される学校団体の先生方を対象としたガイダンスを開催します。生まれ変わったオセアニア・アメリカ展示についても研究者が展示場で説明します。

実施日 4月5日(火)
4月7日(木)
4月8日(金)

刊行物紹介

■平井京之介 著
『村から工場へ——東南アジア女性の近代化経験』



NTT出版 定価:2,415円
タイの農村女性は、いかにして工場に適應し、生活はどう変わったのか? 経済人類学の新たな地平を拓く日系工場のエスノグラフィ。従来の「女工哀史」という見方ではとらえられない、生き生きとした姿が描かれる。

■川口幸也 著
『アフリカの同時代美術——複数の「かたり」の共存は可能か?』



明石書店 定価:4,410円
アフリカの同時代美術という分野で、20世紀のアフリカが出版や展覧会を通してどのように語られてきたかを検証し、21世紀における新しいアートと文化の語り方の可能性を模索する。

■『民博通信』2010 No.131
評論・展望
他者の幻想、自己の内観
——驚異譚をめぐる比較研究
山中由里子

■Bon bryga dge legs lhum grub rgya mtsho/
Shin'ichi Tsumagari/Masashi Tachikawa/
Yasuhiko Nagano
『Bonpo Tangkas from Rebkong
(Bon Studies 13)』
国立民族学博物館調査報告 No.95

友の会

友の会講演会(大阪)

会場 国立民族学博物館 第5セミナー室
定員 96名(当日先着順、会員証提示)

第395回 5月7日(土) 14時～15時

「特別展「ウメサオタダオ展」関連」

梅棹忠夫の人となり

講師 石毛直道(国立民族学博物館 名誉教授)

20世紀後半の日本を代表する知識人としての梅棹さんの業績はよく知られています。しかし、その人柄について知るのは、親しくした人びとに限られています。そこで、梅棹さんの酒歴など、知られざる梅棹忠夫像について紹介いたします。

第396回 6月4日(土) 14時～15時

「特別展「ウメサオタダオ展」関連」

梅棹忠夫と民族誌写真

講師 吉田憲司(国立民族学博物館 教授)

日本写真家協会会員でもあった梅棹忠夫先生は、民族学調査での写真の活用について独自の見識のもと、世界各地で、その地に暮らす人びとの姿をカメラに収めました。「梅棹忠夫写真コレクション」は民博に寄贈され、現在その整理や情報化作業をすすめています。企画展「民族学者・梅棹忠夫の眼」の開催にあわせ、梅棹先生がカメラ・レンズを通じて眼を凝らすようにした世界を改めて見つめ直します。

東京講演会

会場 東京都中小企業会館 講堂(銀座)
定員 130名(要申込)

第97回 4月30日(土) 14時～15時

「特別展「ウメサオタダオ展」関連」

梅棹忠夫の人となり

講師 石毛直道(国立民族学博物館 名誉教授)

第98回 6月26日(日) 14時～15時

「特別展「ウメサオタダオ展」関連」

梅棹忠夫先生の学問世界

講師 松原正毅(坂の上の雲ミュージアム館長、国立民族学博物館 名誉教授)

梅棹忠夫先生は、「幻視の行為者」としての人生をあゆまれました。そのあゆみは、みごとくいつかよいものです。梅棹先生の学問世界をささえていた三つの要素は、持続力、越境力、発見力だともっています。今回の講演会では、この三つの要素を中心にお話したいと考えています。

時間 14時～17時
場所 第5セミナー室ほか
申込方法

みんぱくホームページから参加申込書をダウンロードし、必要事項を記入の上、FAXにてお送りください。

お問い合わせ
広報企画室広報係
電話 06・6878・8560

●無料観覧日のお知らせ

5月5日(木・祝) のこの日は、特別展、企画展、本館展示を無料で観覧いただけます。ただし自然文化園を通行される場合は、入園料が必要です。

みんぱくラジオ「世界を語る」
みんぱくの研究者のお話をラジオでもお楽しみいただけます。
ラジオ大阪(1314kHz)
毎週水曜日 23時30分から24時

*詳細については、みんぱくホームページをご覧ください。
*お問い合わせの受付時間は9時から17時(土・日・祝日を除く)です。

国立民族学博物館
ミュージアム・ショップ

電話 06-6876-3112
FAX 06-6876-0875
e-mail shop@senri-f.or.jp
水曜日定休

ウェブサイトもご覧ください。
オンラインショップ
[World Wide Bazaar]
http://www.senri-f.or.jp/shop/

特別展「ウメサオタダオ展」解説書

三月一日より始まった特別展「ウメサオタダオ展」の解説書をご案内します。
国立民族学博物館(みんぱく) 初代館長、梅棹忠夫の九〇年の全生涯とその知的営みにせまる、渾身の力作です。総勢四二名にのぼる執筆陣がそれぞれ異なる視点から解題をこころみえています。
今回の特別展をご覧になる前に、是非お読みいただきたい一冊です。

特別展解説書
梅棹忠夫
——知的先覚者の軌跡

編集: 特別展「ウメサオ タダオ展」実行委員会
責任編集: 小長谷有紀
発行: 財団法人千里文化財団

A4判・146頁
定価:1,890円(税込)
(友の会価格 1,701円)

